

令和5年度

第1回 印西市在宅医療・介護連携、認知症対策推進会議 議事録

日時：令和5年7月7日（金）午後2時～3時

場所：印西市役所 別棟 農業委員会会議室

出席者：委員14名 欠席者：なし 傍聴者：2名

氏名	備考
河内 雅章	医療関係者の代表
飯塚 真司	医療関係者の代表
永井 美奈子	医療関係者の代表
佐久間 郁美	医療関係者の代表
杉山 光枝	医療関係者の代表
新井 亨	介護支援専門員の代表
蓮實 篤祐	介護関係者の代表
湯浅 恵美子	介護関係者の代表
吉川 貴雄	介護関係者の代表
伊奈 千春	介護関係者の代表
鈴木 誠一	印西地区消防組合の代表
村田 純子	認知症看護認定看護師
筒井 慈子	認知症コーディネーター
荒井 千景	地域包括支援センターの代表

事務局 : 高齢者福祉課長：澤田
健康増進課：齋藤
高齢者福祉課包括支援係：小塚・赤間・太田
印西北部地域包括支援センター：工藤
印西南部地域包括支援センター：太田
船穂地域包括支援センター：吉橋
本埜地域包括支援センター：鈴木

会議内容： 1. 開 会

2. 委員自己紹介

3. 会議録署名委員の選出

4. 議 題

(1) 令和5年度在宅医療・介護連携、認知症対策推進事業計画について

資料1・資料2

(2) その他

5. その他

6. 閉 会

議事録： 4. 議題

議 長)

それでは、「議題4(1) 令和5年度在宅医療・介護連携、認知症対策推進事業計画について」を議題とします。事務局から説明をお願いします。

【資料1・資料2に基づき、事務局より説明】

議 長)

F委員は、6月19日の多職種連携交流会に参加されたようですが、いかがでしたか。

F委員)

今回こちらの研修参加させていただきました。先ほど事務局の方からお話があったように、今回、初めて警察の方が参加されまして、同じグループだったのでいろいろなお話を聞くことができました。数日前から、印西市で男性が行方不明になりましたと放送が流れておりましたが、ご家族の方から情報開示の許可が出たこともあり、皆さんに情報を開示するので何かあったらご連絡くださいという話もありました。そのようなお話も含め、警察の方とお話することができてよかったです。また、警察の方は、こちらに赴任して間もないとのことでしたが、このような場に参加する機会が少ないので、行政や消防、他の職種の方などと連携できるとよいと思うとおっしゃっていたので、お話に上げさせていただきます。

議 長)

A委員は、多職種連携について、何かご意見はありますか。

A委員)

私ども地域包括支援センターの方では、日々、医療機関から、がん末期の方が在宅へ戻って療養したいというご相談が入ってきております。今年になって、印旛地域は特に多くなっております。

本当に待たなしの患者様がとても多くて、先生との連携をとりながら、福祉用具や訪問診療、訪問看護などに迅速に繋いで、安心して在宅で療養ができるように環境を整えるというケースが大変多くなっているのが現状でございます。

議 長)

介護と医療サポートガイドやエンディングノートは、更新する度に非常に充実してきていると思います。一方で、少しずつ厚くなってきているので、検討が必要かと思います。

このサポートガイドは、包括支援センターの方にもまとまって置いてあるのでしょうか。

事務局)

サポートガイドは包括支援センターの方にも常備しております。

議 長)

実際、包括支援センターでは、市民の方がサポートガイドを持ち帰ることはありますか。

A委員)

相談にみえる方が直接持っていくことは、今はあまりないです。私たちは、こちらのサポートガイドや私ノートなどはストックしてありますので、必要に応じて、この冊子を用いながら説明をしています。また、お持ち帰りしたいという方にはお渡しして、わからない点は、いつでもご連絡くださいというようなご案内をしています。

議 長)

サポートガイドは、脳卒中や認知症などケースによってわかりやすく説明されているので、一般の方には、このような資料を見せながらご説明されると非常に理解が進むと思います。今後一層、事務局で充実したサポートガイドを作成していただけるように、よろしくをお願いします。

議 長)

市民講演会に関して、何かご意見はございますか。

J委員)

市民の方が在宅で看取りをする場合、具体的にどのようなことがわからないかイメージしやすくするために、在宅で看取った経験のある方が体験したことをお話するという話から始まっていると思います。そこで、できればそのケースに関係したケアマネジャー、訪問看護の方などに、実際こういうことがよかった、こういうことが不安だったというご家族の正直な思いを話していただいて、それを市民の方が実際に起きる場合の内容として受けとめていただくというのが一番よい企画だったと思いますが、今回の企画はどうもそうならないんですね。

それはなぜかという、担当ケアマネが市民の前に出て話すことはできないと言って拒否したり、訪問看護の方が、ちょっと体制がとれずに云々と言って私のところに話が振られてきたので、それは違うよということで今返している状況です。

市は、形を整えて綺麗に仕上げようとするのではなく、本当に市民目線になって、必要なことを知る、対策を考えるという機会にする。せっかく体験した人が話してくださるので、内容について、しっかり深めることができるような体制を考えるべきだと思います。まだ10月まで予定がありますので、そのような方向で動いていただければと思います。

議長)

調整中ということは、できないということですか。

事務局)

訪問看護の事業所のみ調整中というところで、市内の訪問看護の事業所の中でどなたか出ていただける方をお願いしたいと思っております。

関わっていたケアマネさんに出ていただけるのが一番よかったのですが、どうしても人前で話すことが難しいということもありまして、無理にお願いできないと思っております。また、体験談のお話をされる方も専門職でうまくお話ができる方なので、この事例で、よかったことや不安だったことなど詳しくお話できる方だと思っております。

講演会は、在宅療養のことについて、まだよくわからない市民の方を対象としておりますので、この体験談のお話について、事業所の方からは、事例について深掘りした検討というよりは、市民への周知の意味で、事業所の方がどのような役割を持って、例えば体験談で出たお話以外に、訪問看護の事業所は他にもこのようなサービスが提供できますなどのお話をしていただければと考えております。

議長)

わかりました。当事者の生のお話は、非常に説得力があると思います。まだ時間もありますので、引き続き、検討をお願いします。なかなか一般の方が、このような場でご自分の家族のことについてお話することは非常に難しいと思いますが、今回は専門職の方ということですね。今までにない取り組みですし、一般の方に対しては非常によく理解が進むのではないかなと思います。やはり講演という形になってしまうと、どうしても具体的なイメージが湧かないので、ぜひこれは実現していただきたい。より調整を頑張っていただきたいと思います。

それでは、「議題4(2)その他」に移ります。委員の皆様から何かございますでしょうか。

それでは、以上をもちまして本日の議事を終了いたします。

ありがとうございました。

令和5年7月7日に行われた、令和5年度第1回印西市在宅医療・介護連携、認知症対策推進会議の会議録は、事実と相違ないのでこれを承認する。

令和5年7月19日

署名委員：

伊奈 千春

吉川 貴雄
